

コメント

東工大退職後23年、異動先の東大の定年後8年経過し教員時代の記憶が薄れております。大学教員の務めは自らの研究を通じて教育することと信じ、研究の独創性と先駆性を追求し、近接場光学、ナノフォトニクス、ドレスト光子、オフシェル科学の学問を世界に先駆けて順次創始しました。これらはナノ寸法の量子場の研究ですが、その深化とともに上記のように新名称を付けて推進した次第です。当初は研究論文を受理する学術誌がありませんでしたが、粘り強く投稿するうちに受理・出版されるようになりました。すると欧米の研究者がこれらの新奇な研究に興味を持ち国際会議での講演を多く依頼されるようになりましたので、自らも新しい国際会議を創設し学問の振興に努めました。大学在職中は複数の産学連携の大型プロジェクトをお世話しつつ実験研究に集中しました。定年を契機に（一般社団法人）ドレスト光子研究起点を立ち上げて基礎理論研究を推進し、現在に至っています。最近ではナノ寸法の光の基礎理論が宇宙論と結びつくというダイナミックな展開となり、心を躍らせています。以上の学術活動が今回の叙勲に繋がったのであれば望外の幸せです。お世話になりました皆様に感謝します。今後も引き続き研究を進める所存です。



大津元一名誉教授